

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 5月 12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173501008		
法人名	天理教本輪西分協会		
事業所名	グループホームタンポポ		
所在地	〒050-0051 室蘭市石川町202番地1 (電話) 0143-50-2255		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年5月12日

## 【情報提供票より】 (平成20年12月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年10月17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤11人, 非常勤7人, 常勤換算16.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.6 歳	最低 75 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	本輪西ファミリークリニック 日鋼記念病院 三村病院 高橋歯科クリニック
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、東室蘭から西側の小高い位置にある平屋建ての建物で、天理教本輪西分教会が事業主体となって経営している。事業所の後ろ側は、自然に恵まれた山林になっており、季節感を身近に感じることができ、春から秋にかけ山菜も豊富である。また、利用者の散策コースにもなっており、春の雪解けを楽しみにしている。施設長は日々の暮らしの中で職員と利用者の信頼関係づくりを重要視しており、その取り組みに余念がない。全職員も明るく施設長の考えのもとに、利用者一人ひとりに合わせた支援と質の向上に取り組んでいる。職員の中には看護師もおり、契約病院とは24時間体制で連携している。利用者の生活環境の充実において今後期待できる事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で課題であった「緊急時の取り組み」については、引き続き、運営推進会議などを通じて地域へ要請するなどの取り組みに期待したい。また、「栄養バランス」についての支援は、献立の工夫などをし、栄養バランスに気をつけ、必要に応じて血液検査を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で作り上げており、事業所独自の分析シートを作成するなど、更なる質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>1ヶ月に1回開催しており、その中で外部調査結果の報告をしている。事業所の行事、運営に関しての意見をもらうなどサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>1ヶ月に1回、職員手作りの「たんぽぽ便り」を送付して利用者の様子や事業所の状況などを報告している。また、新年には、利用者一人ひとりが担当者と一緒に撮ったスナップ写真と、担当者のコメントをつけて送付している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の町内会に加入している。また、音楽、清掃ボランティアを受け入れたり、地域からの認知症の相談に対応したり、講演会講師として参加するなど地域との連携づくりに取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割意義を、職員は理解しており、基本理念に「利用者の人格を尊重し、地域に開かれた介護を目指す」ことを明記し、運営理念に「お互いを助け合い、明るく楽しい生活を送ること」をあげ、その継続性を支えるための現状にあった柔軟な支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、事業所の基本理念と介護の目的を記入したカードを携帯し、その実践を目指したケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会に加入している。地域の祭り際には行列が事業所の前を通るため、賽銭を出す利用者もいる。また、日々生活の中でも町内会や老人クラブと交流し、関わりを作っている。地域の認知症の相談に対応し、施設長をはじめ職員は、講演会等で講師役を務めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果に満足することなく、更に職員と利用者の密接な関係づくりに取り組んでいる。また、分析シートで定期的に家族からの意見を取り入れるなど信頼関係を築くための、きめ細かな評価づくりに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、運営推進委員から事業所と町内会が合同で行事を開催するという意見をもらうなどサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内グループホーム連絡会を2ヶ月に1回開催している。また、室蘭市と互いに関係を密にし、一緒に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月始めに便りを送っている。事業所独自の利用者現状分析シートを作成し、1ヶ月に1回利用者の家族に様子・状況を報告して、同時に家族からの意見も求めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議では、意見を出しづらい様子が、観られるので、事業所に相談窓口を設けるなど苦情や、意見の言いやすい環境を作る努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者が出た際に利用者が混乱をしないよう、ユニット間で職員を日常的に行き来するようにし、職員が退職しても、利用者、その家族に不安を与えない為の対策を、日ごろから行っている。また、重度化していく利用者に対して職員も対応できるように、利用者との信頼関係づくりの継続を図っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回以上、全職員が研修会に参加している。また、運営者は、職員が研修会に出席しても、勤務体制に影響が出ないように調整するなど、職員が参加しやすい勤務体制を作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に加入しており、輪番で事例発表したり、学習会や交流に参加したりして、サービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人と充分話し合い、内容を把握してもらっている。また、家族には、必ず事業所の雰囲気を見てもらうが、双方の理解のもと、徐々に支援の工夫に取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リビングの長椅子に、職員と利用者がくつろいでいる光景は、家族的な温かさが感じられる。また、職員と利用者は一緒に作業を行うなどともに支えあう関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者は人生の先輩であるという、尊敬の念のもと、一人ひとりに合わせて、本人のやりたいこと、できないことの手助けの支援し、更なる信頼関係作りに取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の意見を聞き、職員全員で意見交換や、1ヶ月に1回のモニタリングを行っている。更に事業所独自の、利用者側に立った分析シートを用い、家族の意見も取り入れた計画を作成している。担当者も2名体制で見守り、ケアに取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の介護計画書を記録している。が、利用者の高齢化と重度化も進んでいるため、状態が変化した際には、計画の見直し後であっても、再度検討や見直しを行っている。利用者の様子に合わせ、臨機応変に対応している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は、利用者や家族の負担に配慮して、医師の往診体制をとっている。また、終末期における、医師と職員の研修も行うなど、事業所としてできる限りの支援するよう努力している。	○	本人と家族の暮らしを守るためにも、更に地域の要望にも貢献する事業所として柔軟な対応ができるように、今後の多様な支援体制の取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に当たっては、事前に医師へ全利用者の健康状況、診てほしいところなどを記載した往診連絡書を送り、結果は家族にも報告して、家族の安心と利用者の健康管理の支援をしている。また、往診の際に、検査が必要な利用者には家族にも連絡し、必要に応じて医師から家族に連絡し、説明している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師と職員が一緒になって、看取り研修を実施し、その記録簿を整備している。重度生活支援に関しては、事業所の方針を同意書に明記し、連帯保証人の押印欄を設けている。また、病院と事業所、家族と連携した取り組みをしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、優しい言葉遣いをするなどの配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者のその日、その時の本人の気持ちの引き出しに余念がなく、できるだけ利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒にゆっくり、明るい雰囲気ですべての食事を摂っている。また、後片付けは利用者も茶碗を拭いたりし、楽しい雰囲気作りになるよう取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、1週間に2回の入浴をしているが、本人の意向に沿った支援をしている。入浴の困難な利用者にはリフトも設置し、対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	冬季間の寒い時期には、カルタ取り、トランプ、おはじきをしたりし、利用者の気晴らしの支援に取り組んでいる。暖かい時期は、散歩などを取り入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季間は、外での散歩はせず、事業所の中で歩行したり、利用者の中には職員と一緒に買い物に行くなど、外出の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には施錠していない。玄関は、日中は施錠しておらず、また、玄関にセンサーを設置し、その音で、人の出入りがわかるようになっている。なお、夜間の安全面から、施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、消火訓練を実施しているが、避難訓練については、混乱する利用者もいる事から、今のところ取り組みが不十分である。	○	事業所の周りは、民家も少ない事から、事業所主体、運営推進会議に協力を要請して、日常的な、利用者の安心安全への取り組みに期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	市販の栄養に関する本を購入し、他の事業所の献立メニューを入手するなど、職員で献立のメニュー作りの工夫に取り組み、栄養バランスに努めている。また、必要に応じて、病院の血液検査を実施している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は清潔に管理している。浴室も綺麗に清掃されている。リビング壁には、訪問調査時には、紙で折った「お内裏様とお雛様」が貼ってあり、季節感にも配慮の工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室には、使い慣れた鏡台を置いたり、壁には家族の写を貼ったりするなど、それぞれ利用者の好みや馴染みの物などが持ち込まれ、居心地のよさに配慮している。		

※  は、重点項目。